

道路愛護の民謡

時間節約の自転車が時間と金を浪費する
乗り急ぎすとも降り急ぎするな

往來の繁みにつれて思はぬ災難に逢ふ人々が少くない

かうした災厄からまぬがれるやう人々の心得とか、また幾

多の曲折を経て出来た良い路も心なき様にさし措かれて

は、折角の道路が夫れだけの効果をあらはさぬばかりでな

く、處々の壞敗から交通價值の減りかたもいみじかるのを

心配して、地方地方で色々の標語が出来また民謡調の歌も

謡はれ、更に深入りしたものにはネキストゼネレーション

に着目して交通や道路愛護の思想を涵養しやうとするのも

ある、之れも世人が道路交通に眼醒めた副産物であらう、

會長崎の上野土木課長が前に舉けた類のものを各地から集

めて本誌に寄せられましたから左に紹介することにしまし

た、玉と石とは見る人々にお任せする。

交通に關する警句

車の歯止と提灯は使はぬ時でも放しちやならぬ

宮崎縣

左側通行は安全なり
左側通行は便利なり
左側通行に混雑なし

岩手縣

左側を行く人盲者も安全
養生に病なく左側通行に危険なし

神奈川縣

繪入り 大阪府

人は歩道を通れ車は車道を通り
出會頭に氣を付けよ

左小廻り右大廻り

素直に止り早く進め

犬だつて左側通行よ

無遠慮な横断と軌道通行の罰は此通り

右側通行の罰

飛乗り飛降り大怪我の基
無益な競争は身を危くする基

人を落した不注意はやがて己れが落し穴

人は歩道を左側通行車馬は車馬道を静かに通行

お互に注意

人通り繁き處で自転車の稽古乗りは出来ぬ
工事場は上も下もお互に気を付けよ

左側を行く人盲者も安全

左側通行は禮儀にかなふ
左側通行する者は幸運なり
左側通行すれば人に焼ることなし

道路に關する愛護句

家より先に道作れ
道の良否で其村も知れる
道橋造れば供養になる
堂宮崩へても道橋作れ

路にも守るべき途あり心せ
傍に障害木石を置くのはよ

のれの土地と區別なく小破は地元で繕ひ

道心のあるなしは地方産業の活不

れ人々道路法の精神

い産業者も旅客者もドシドシ使へ縣道

く繕へよく使へ五百餘里の府縣

借金と道路の穴は少さい間に填めよ

お互いの道掃除は幾萬圓の大修繕に優る

一粒の砂利もお互いの膏

良い道路はお互いの愛護の結晶

道路に關する民謡

狭い道でも吾れから避けて

道路を愛護せよ

宮崎縣

安全地帯が港と見れば

交通巡査が羅針盤

都々逸 神奈川縣

自轉車乗りの時間借り彼方に行つては危いよ

此方に行つては危いよ危いよと言つてゐ間にそれをつぶちた

自轉車節

左通れば氣が樂な 都々逸 宮崎縣

ともに努めよ道掃除

(安來節) 福井縣

道路がよけば國も富む

道路の良否は文化の尺度

血のめぐり良けりや自然に體も肥る

道路がよけば國も富む

道路の良否は文化の尺度

ともに努めよ道掃除

(安來節) 福井縣

大切な田畠つぶしてまで
出来た道路ならなほ大切

道路が良ければ往來も安全に
自然仕事も捗が行く

自然仕事も捗が行く

道を愛して直しく使へや

知らずくに里が富む

(都々逸) 山形縣

懿をひれりて小意氣な紳士
右を通れば懿が泣く

意氣を氣取りて飛び乗りすれば
落ちて怪我する物笑い

急ぐ自轉車無暗に飛ぶな
人にあたれば遅くなる

やめておくれよ道路で遊戯
一つあ身の爲め人の爲め

雨は天から涙は眼から
怪我は其の身の油斷から

夜の車にあかしがなけりや
怪我をさせたり怪我したり

お互に道は左を通りましやう公衆道路口だけぢや
とても社會に益はない個人の又實行は人の爲め

徒歩は左側車は中に秩序保つは國の爲め

上り下りの道路でさへ人の一生を教へてる

下に下には昔の事よ

(都々逸)

長崎縣

一ツセ人々行き交ふ道ならば大路小路の區別なく
二ツセ不不斷に互ひ心して朝夕掃除を致しまやう

三ツセ路面に凸凹出來たならすぐにも一鍼ならしませう

四ツセ世の中次第に開け行き諸者の往來繁くなる

忘れしやんすな往來は左

左一語が身を守る

左通れとひき出す三昧に

茨木縣

道愛護せよ

鴨綠江節

一、人々心を一にして互いに道路を愛しましやう

二、ふだん互いに手入れせば自然に道路が直ります

三、道は文化の母なれば朝夕勤めを大切に

四、世の中進めば進む程自轉車自動車通ります

五、何時も皆さん氣を付けて互いに左側を通りませう守り……

六、無斷で道路上に物を出し或は子供を遊ばすな止め……

七、何になするにも我々になくてはならない此の道路愛し……

八、止むない仕事は官頬み下水の掃除や草取りをやり……

九、困らぬ程度に村々で土地や材料の寄附でも致し……

十、兎に角議論を後にして道路の手入れを第一に勉め……

五ツトセ何時でも悪いのかるみは水はけ悪きか爲めなるぞ

六ツトセ無暗に道端塞げたり子供を道で遊ばすな

七ツトセなすべき勤と心得て溝の浚へや木障打ち

八ツトセやがて理想の路面にて御互便益受けまやう

九是れを眞に行へは道の誓請も甲斐がある

十才トセどうか皆様お互に道路を愛護致しましやう

道路上に關する唱歌

群馬縣

道では決してせぬものよ

小さい兒には守をつけ

鎮守の森や公園や

お寺の庭でかけくらべ

兵隊ごつこも元氣よく

ベースボールも勇ましく

我が身に怪我のないやうに

夜は車や牛馬に

燈火をともす定めあり

自動車自轉車人力車

ベルや喇叭を取りつけて

坂橋四ツ辻曲り角

人の雜沓する場所は

チン／＼ブー／＼ハイ／＼と

合圖もほどよくゆづくりと

前後左右に氣を配り

互ひに左によけましやう

追ひ越すときは合圖して

越さるゝものゝ右を行け

消防車や郵便車

物を置くのも扱ふも

道路の上の事ならば

夢にも勝手にしちやならぬ

鞠投げ羽根つき鬼ごっこ

煙火や吹矢空氣銃

自轉車等の練習は

神興華列諸行列

かよはき子供年寄や

早きを尙ぶ自動車や

行く手を急ぐ車には

道を譲るが第一よ

牛馬車は四辻や

橋や人込み廻り角

避けて左の端に置き

繋げ牛馬は驅け出す

七千餘萬の同胞よ

道は獨りのものぢやない

身の爲め人の爲めなれば

勝手氣儘はやめにして

他人の迷惑思ひ遣り

交通安全第一に

互の危険防ぎましやう

社會の利益を圖りまやう

岩手縣

黄金花咲く我が岩手

其のは面積千萬里

農産林產蓄産や

されど位置は本州の

半は雪に埋めらるゝ

故に縣民お互に

一年以上の働きを

爲さねばならぬ立場なり

其の働きの撒路なる

長い道路も泥深く

馬車も自動車も動けない

爲めに荷物は半減す

賣るもの安く買ふものは

爲めに

二倍働いて

人二倍働いて

縣道は五百七十里

馬車も自動車も動けない

運送荷物の半減は

高い御金を出す理なり

三分の一に物を賣り

結果生活難となる

泥を除きて砂利を敷き

進ンテ公益ヲ廣メ世務ヲ啓キ常ニ國靈ヲ重シ國法ニ遵ヒ……
一 右の勅語の意味はよくわかつて居りますか
一 此の唱歌の通り（群馬縣唱歌の部）皆さんから先きに實行し
てください
一 此の事を知らぬ人や守らぬ人には「オバサン右ナ通ルノデス
ヨ」「オバサン右ナ通ツテハアブナイデスヨ」とやさしく教へ
てあげてください
一 學校への途でも朋友よ横に廣く手をつないだりして歩かぬ

こと

自動車の路を走ふたり車の前に邪魔したりせぬこと

一町の曲り角や踏切などは一寸止まつてあたりを見てから行きなさい

雨や雪や風の日などは殊更気をつけて

我等は日本によい子供人に注意はされずとも道行くときは忘れず左側を通りましやう

天氣のよい日外出運動遊戯するときは人や車の妨げにならない所で遊びましやう
道行く人が知らずしてもしも右側通はるなら我等は教へて上げましやう左を通つてくださいと

交通に關する往時の民謡

此處と彼方と地續きならば水で便りがしたうござる

宮崎縣

我が戀は細谷川の丸木橋渡るにこはし渡らねば

思ふお方に逢はりやせぬ

薩摩吉川に關所がなけりや連れて行きたい身共の國へ

谷を隔てゝ立話

古田で提灯買ふて中山でつづけて志々岐なた風に消やされた長崎縣琉球におしやるなら草鞋はいておしやれ琉球は石原小原

箱根八里は馬でも越すが越すに越されぬ大井川

田平遠い所玄海受けて蒙古あらしかそよそよと

沖にまぎるは何船ぢやろかれはお父様の渡船

平戸と廣島地續きならば通ふて勉強して見たい

鳥も通はぬ八丈が島にやられる此身ばいとほねど

跡に残りし妻や子がどうして月日を送るやら

長野縣

川の鳴る瀬と鹿の聲

心細いよ木曾路の旅は笠に木の葉が舞ひたゝる

信濃路や木曾の御坂の小笠原分け行く袖もかくや露けきおそろしや木曾のかけ路の丸木橋

ふみ見る度に落ぬべきかな

降る雪に木曾路の谷は埋もれてかけて橋は見へぬ頃かな

雲も尙下に立ちけるがけはしのばるかに高き木曾の山道

浪と見る雲をわけてそこき渡る木曾のかけはし底も見へれば

こひと言ふても來りやうか佐渡へ佐渡は四十五里浪の上

天龍下ればしぶきがかかる持たせやりたや檜笠

木曾へ木曾へとつけ出す米は伊那の百姓が餘り米

熊野へ参らむと思へども陸より参らば道遠

しすくれて山きびし馬にて参らば苦行なら

—— 梁塵秘抄 ——

す空より参む羽たへ若王子

ゑらいぞづらいぞ熊野の道は笠に木の葉がヨづらいぞ

わしら若いとき有田へ越へた知らぬ鹿が瀬夜で越ゑた

粉河夜に出て背の山越へていこら笠田の萩原へ

わしら若い時津荷まで通よた津荷のどめきて夜が明けた

鳥も通はぬ八丈島へ日高喜太夫船流された

みづらすむ淵をちひるの底に見て大刀の緒かため行く山路かな

井越の一本橋様となら渡ろ落ちらむ時きや諸共に
しんきくと山路行けば笠に木の葉が振りかゝる
鳥も通ばぬ八丈が島に通ふそなば濱千鳥

長崎

(笠松生)

コーヒーも一ぱい飲みたいが
七日も砂とうが切れてゐる

(一)

雨は除るふる夜通し降つて
ザア、ザ麗立て何時晴れる

(六)

うまにおも荷をひかせ
どろはだんだんふかくなり
うまくまも埋もれ行く

みちは何時もの底なし海で
どろがどこにもながれてる
あめの降るのもいとひなく

(七)

うまばみゝまでうづもれて
ジヨソのからだも今は早や
どろにだんだんしづみ行く

(二)

年より百姓のジヨレサンが
まちへ荷馬車を駆つて行く
みちばいぢめんどろひかり

(八)

見ゆるは帽子の先きばかり
アナタは何處に居ようとも
泥なみ乘切りろちから貸せ

(三) 夫れにジヨンサン構ひなく
いそぎの用事を達す爲めに
のろいうまをばせき立てゝ

ばしりちかづきこのうまを
どろのうみからすくひ出せ

泥みちセッセとはしり行く
ジヨンサンいちつて想鳴出し
うまばいきせきあせながす

(九)

肥よく自まんのイリノイズ
土黒くてみのりはよいが
困つたことには何處もみな

(四) どろみち走るもパンの爲め
これをやらねばくちが乾る

どろのかざりで覆ふてある

(十)

世かいに稀れどろのうみ
チヤンと直らぬそのうちは
ジヨンサンもろとも馬共は
そこへうかむときをなし